

## 今日のみことば

### □ 1月14日(日) 申命記 33章

モーセは死ぬ前に各部族を祝福しました。モーセの祝福の言葉は神の栄光と威厳を語ることで始まる。このお方は民を愛されるお方。だから民もまた神を愛するのです。

### □ 1月15日(月) 申命記 34章

ネボ山の頂上から、モーセは約束の国の光景を見下ろしていた。モーセの働きは終わった。彼は約束の地に入ることはできなかったが、彼はつぶやかなかった。神の最善を確信して。

### □ 1月16日(火) ヨシュア記 1章

モーセの後、ヨシュアがイスラエルの民を指導した。イスラエルに対する神の目的は継続していた。カナン征服へ、強くあれ、との呼びかけが繰り返される。

### □ 1月17日(水) ヨシュア記 2章

エリコの町に送られた斥候はすぐに見破られたが、ラハブの勇気によって助けられた。彼女は真の神について聞いた時、その神を信じ、信仰にふさわしい行動をしたのです。

### □ 1月18日(木) ヨシュア記 3章

雪解け水で増量したヨルダン川を、神はご自身の民を導いて渡らせられた。祭司たちがあふれる川の水に足を踏み入れると川は干上がって、彼らは前進した。

### □ 1月19日(金) ヨシュア記 4章

各部族の代表が川の真ん中から石を拾い、それを出来事の記念として据えることが命じられた。神の約束実現の奇跡をイスラエルの民が記憶し、神を畏れかしこむためであった。

### □ 1月20日(土) ヨシュア記 5章

アブラハムと神との契約のしるしである割礼は、荒野での四十年間無視されてきた。今や新しいスタートが切れ、割礼の復活は神と神の民との古い契約の更新のしるしとなった。

---

ろ ぼ No. 1850  
2018年 1月14日  
日本バプテスト 立川キリスト教会  
牧師 大川 博之

---

ヘブル 1:1-2

神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました

私は主イエスをしっかりと見上げて、豊かにいのちの水をいただき、溢れるばかりに平安な日々を過ごさせていただくことが、この新しい年の願いです。そこで大事なことは、その主イエスを、私たちはしっかりと見つめることができているか。あなたはイエスを誰と告白していますか。

聖書が証言する「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました」(ヘブル1:1)との言葉をまず、私たちはしっかりと聞かせていただかなければなりません。ヨハネは「キリストは人間となりこの地上で私たちと共に生活なさいました。彼は恵みと真実の方

でした。私たちはこの方の栄光を目のあたりにしました。それは天の父のひとり子としての栄光でした。」(ヨハネ1:1)と証言をします。そこには、いかに天の父なる神さまが愛と慈しみに満ちたお方であるか証言するイエスの姿があります。神さまはこれまでどのような形で、私たちにご自身の思いとご自身を、私たちに知らせてお出でになったのでしょうか。神さまは、人間が罪を犯して楽園を追放されてからも、立ち返る機会は無数に与えて下さいました。「神は、昔私たちの先祖たちに、預言者たちによって、救いの御心を、夢や幻や直接語り掛けるなど、いろいろな方法で語られた」(ヘブル1:1)と告げられるとおりで

す。人間はそれに耳を傾けてこなかったと言うことです。何という愚かをしてきたことかと、言われるのかも知れませんが、それは人ごとではありません。パウロは「神について知るうる事柄は、彼らにも明らかです。神がそれを示されたのです。世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。従って、彼らには弁解の余地がありません。」(ロマ1:19-20)と言いました。人間のどのような弁解も神さまの前では通用はしないのです。神さまは告げることとしっかりと告げて来られました。それでも理解しない、しようしない人間に、最後の手段としてご自身が言葉をかけられました。それが主イエス・キリストです。

私は、私たち日本人の信仰を八百万神を信じる偶像礼拝の専たるものとするのにいささかの思いがあります。私はそれらを通して、万物の主なる神さまへ私たちを導くことばと聞かせていただきながら、神さまはあらゆることを通して語ってこられたことを思わせていただくのでした。けれども、その神の思いは人間には通じませんでした。旧約の時代から今日まで、それは続いてきました。とうとうご自身が語られることになりました。ヨハネはそれを「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」(1:14)と言います。私たちはしっかりその言葉を聞かなければなりません。イエスが喩えられた、ぶどう園の農夫のような愚かをする(マタイ21:33-40)ものであってなりません。私たちを愛し抜いておられるゆえの御子の誕生です。そのお方をしっかり見上げて、最高の祝福をいただいてこの年を喜びで満たしたいです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

マルコ 3:1-6 そのとき 命は

私たちは、イエスがどなたであるか、しっかりと見つめさせていただきます。安息日に起こったこの出来事は仕組まれたものでした。イエスもそれは承知でした。そのことは明確にイエスはご自身を明らかにされる機会を狙ってお出でであったと考えます。そこでのイエスの質問です。

神さまが、律法を定められたのは、私たちがいのちに生きるためでした。けれども人々は理解せず、束縛の道具としましたイエスの「安息日に律法で許されているのは、善を行うことか悪を行うことか、命を救うことか、殺すことか」との問いかけに、律法学者たちイエスを陥れようとしていた人たちには答えられませんでした。

同様に私たちもまた、み言葉をどのように聞きとっているかは、大変重要であると言わなければなりません。イエスは私たちに命を与えるためにお出でになったのです。。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

ルカ2:40-52 神の働きとは